

使用済製品等のリユース促進事業研究会（第17回）
議事概要

1. 開催概要

(1) 日時・場所

日時：平成27年3月31日（火） 10:00～12:00

場所：TKP東京駅前カンファレンスセンター ホール4A

(2) 議事

- 1) 市町村における使用済製品リユースモデル事業（成果報告）
- 2) 市町村における使用済製品リユースモデル事業の取りまとめ（案）について
- 3) 平成26年度のリユース実態調査の報告
- 4) 意見交換会・分科会での検討結果の報告
 - 1 リユース関連事業者との意見交換会について
 - 2 使用済製品等のリユース促進事業研究会 分科会の検討結果について

(3) 出席委員

三橋規宏（座長）、加藤正、黒田武志、佐々木五郎、佐々木創、杉研也、杉本亨、田崎智宏、手塚一郎、長沢伸也、波多部彰、服部美佐子、藤田惇、和田由貴（以上、敬称略）

(4) 欠席委員

小野田弘士（以上、敬称略）

(5) モデル事業 実施地域

林佳裕、川島元堂、前川健一、吉澤泰延、小川健司（八王子市）、森田将司、落合広貴（中央大学）、中川公嗣（逗子市）、松本真知子（逗子ゼロ・ウェイストの会）、鳥居佑多（武豊町）、井伊敏（株式会社エイゼン モデル事業協力企業）（以上、敬称略）

(6) 配布資料

資料1 研究会名簿

資料2 市町村における使用済製品リユースモデル事業について（成果報告）

2 - 1 東京都八王子市

2 - 2 神奈川県逗子市

2 - 3 愛知県武豊町

資料3 「市町村による使用済製品等のリユース取組促進のための手引き（仮称）」（案）

3 - 別紙 第16回研究会でのご意見と対処方針

資料4 平成26年度のリユース実態調査報告（第16回研究会でのご意見と対処方針）

資料5 リユース関連事業者との意見交換会について（報告）

- 資料6 使用済製品等のリユース促進事業研究会 分科会の検討結果について（報告）
- 参考資料1 第16回 使用済製品等のリユース促進事業研究会 議事概要
- 参考資料2 中古衣類を対象とした海外でのリユース実態調査（報告）
- 参考資料3 インターネットオークション・宅配リユースに関する実態調査（報告）
- 参考資料4 リユース業界に関わる関係法令の整理(環境関連法以外)について（未定稿）
- 参考資料5 平成27年度の事業の進め方（案）（第16回研究会 資料7）

（7）その他

会議は公開で行われた。

2．議事概要

（1）市町村における使用済製品リユースモデル事業（成果報告）

【川島（八王子市）】

（資料2-1に基づき、説明が行われた。）

【中川（逗子市）】

（資料2-2に基づき、説明が行われた。）

【鳥居（武豊町）】

（資料2-3に基づき、説明が行われた。）

【藤田委員】

- ・ 開催日に関することだが、リユース店舗で販売をしている経験からすると、利用者はリユース品を土日に売りに来ることが多い。平日に比べて、土曜日は2～3倍程度、日曜日は売上、買取ともに5倍くらいになる。営業時間は10時から17時の時間帯は開店していることが一般的であるが、今回のモデル事業の開催曜日、時間帯はどのようになっているのか。
- ・ モデル事業でも、今後土曜日と日曜日に開催し、受付時間を10時から17時に拡大すれば、回収量、販売量共に増加するのではないか。3地域それぞれに対して今後の開催予定日をお聞きしたい。

【川島（八王子市）】

- ・ リユース市の取り組みでは、回収については平日に7回、日曜日に1回実施した。昨年度は休日に回収を実施しなかったが、学生は休日に自宅に多いので、今年度は休日にも実施した。
- ・ 提供は3月26日から4月6日まで受け付けており、3月28～29日の週末は開催し、4月4～5日の週末は実施しない予定である。モデル事業とは別に開催されている新入生歓迎イベントに合わせて提供を行った。

【中川（逗子市）】

- ・ 資料 2-2 の P.17 にあるとおり、沼間公民館では毎月第一金曜日、土曜日、小坪公民館では毎月最終の金曜日、土曜日に開催している。今回のモデル事業の出張エコ広場は、いずれの会場も金曜日、土曜日に開催した。市役所での開催は、曜日が限られるが、出張エコ広場では、原則として金、土曜日の定期開催としている。

【鳥居（武豊町）】

- ・ 武豊リユースステーションは、毎週火、水、木曜日の 13 時から 15 時の時間帯で開催しているが、ガソリンスタンドであった施設を活用して運営しているため、駐車場が少ないという課題があり、平日に限定した開催日となっている。
- ・ 現状では、駐車場の問題や過度な混雑等のトラブルはないようなので、日時、曜日の拡大を検討していきたい。

【三橋座長】

- ・ 市役所での土曜日、日曜日の開催は難しいという意見はそのとおりだが、土曜日、日曜日に 10 時から 17 時に開催すると効果は平日よりもあるのだろうか。

【藤田委員】

- ・ 効果はあるだろうと考える。土曜日は平日の 2 倍から 3 倍、日曜日は家族連れも多く、参加者も売り上げも 5 倍程度増加する。日曜日に開催できるシステム作りが有効なのではないか。

【川島（八王子市）】

- ・ モデル事業では、回収依頼の 1 日当たりの予約件数は日曜日と平日でほぼ同じ数であった。学生が対象なので、一般市民とは異なる傾向がでていいるかもしれないが、日曜日の予約数が少なく中止になった回収日もある。提供日は他のイベントと日程を重ねるなどの工夫をしている。

【長沢委員】

- ・ 八王子市のリユース品の回収に関する処分費用削減効果について、145 点 950kg をすべて処分した場合には 6 万円とあるが、これは高く見積もりすぎではないか。単純に計算すると 1kg 当たり 69.2 円になる。家庭ごみは一般的に、10 円から 30 円くらいなので、金額が高いように感じる。粗大ごみの単価であれば理解できる。
- ・ 本事業は基本的に赤字になることが明白だが、八王子市の予算を使って日野市、多摩市に回収対象地域を拡大することに関してはどう考えておられるのか。
- ・ 支出合計に人件費が含まれていないが、これは含めるべきであり、含めればさらにコストがかかると考えられる。
- ・ 逗子市においては、出張エコ広場の持ち込み件数よりも持ち帰り件数が多いのはどう理解すればよいか。
- ・ 出張エコ広場に鎌倉市等の市外からも参加があることについて、どう考えているのか。環境によい取組であるため、受け入れているという理解でよいか。
- ・ 八王子市と同様に、費用には人件費が含まれていただきたい。

- ・ リユース品の提供重量と、リユースされた重量、廃棄重量を付け合わせると数値が合わない。計算上で行方が分からなくなっている回収品はどうなっているのか。もし保管するとなれば保管費用などの費用が発生するはずであり、費用に含めるべきである。
- ・ 武豊町は、人件費を含めている点がよい。中間処理費用の設定も妥当であると感じられる。報告書からはリユース品 1 キログラムあたりの費用は 804 円であると考えられ、町としてこの金額をどう認識しているかをお聞きしたい。

【田崎委員】

- ・ 事業に必要な経費に関して 3 地域にお願いしたいことは、今後継続的に事業を実施する場合に必要となる経費、ミニマムでよいので報告書に記載していただきたい。
- ・ 逗子市のエコポイントの発行について、エコポイントの裏付けとなる支出は市の廃棄物部門からは支出していないという理解でよいか。
- ・ 武豊町の人件費は、1 時間あたり 1,500 円の計算になるが、雇用者は必ずしも専属的に受付業務ばかりしているわけではないのではないかと。人件費を下げる工夫の余地があるように思う。

【川島（八王子市）】

- ・ 処理費用に関しては、八王子市では、家庭ごみの処理手数料は直接搬入の場合に 4 月から 1 キログラムあたり 35 円になる。しかし、今回のモデル事業によるごみ処理費用削減効果は、粗大ごみを家まで収集に行った場合を想定して、粗大ごみ処理のポイント表から費用を算出している。
- ・ 市外からの持ち込みに関しては、多摩市、日野市からの収集は中央大学の学生寮 C's からのみ収集しており、行政区域は超えているが、中央大学周辺から集めた形になっている。昨年度は、八王子市内のみの C's から収集を実施したが、希望者の居住地にフィルターをかける必要があった。今年度はさらなる事業拡大のため近隣市と調整を行い、対象地域を拡大した。
- ・ リユース品 1 件あたりの経費が 3,300 円かかることについては、今回の費用にはリユース冊子の作成費用も入っており、実際のリユース市のコストは 15 万円ほどである。また、のぼりなど使いまわしができるものも含まれているので、改めて継続時の費用を整理したい。もう少し費用を抑えられると考えている。
- ・ 収集における人件費は八王子市が行ったため、費用に含んでいない。現在は、学生が自ら車を使って行う方法、収集を民間リユース事業者と連携する方法などを考えており、それらによって収集費用も抑えられるのではないかと考えている。

【中川（逗子市）】

- ・ リユース品の持ち込み件数・持ち帰り件数は、1 人が複数件カウントされている場合もある。リユース品の持ち込み量と持ち帰り量の数値が合わない点については、余ったものを市役所で常設しているエコ広場に持ち帰って展示しているためである。また出張エコ広場の場合は、当日の提供品だけで開催することは難しいため、市役所で開設しているエコ広場からリユース品を持ち込んでいる。
- ・ 鎌倉市からの利用者については、廃棄物は自区内処理が原則であると考えているため好ましくはない面もあるが、イベントを実施する場合には仕方なく、特に市境での開催においては受け

入れるしかない。全体的に廃棄物が削減されるのであれば致し方ない。

- ・ 資料に記載してある費用は、逗子市での廃棄物の一年間分のごみ処理経費から算出しているの
で、この費用を用いてモデル事業の効果を測ることは適切でない面もある。1kgあたり約52円
は収集運搬、中間処理、最終処分の経費を用いているのでこれに人件費も含まれている。
- ・ エコ広場及び出張エコ広場の取組みは、行政と住民の協働であり、行政からこの活動に対して
約55万円の補助金を支出している。ボランティアの人件費は含まない考えである。
- ・ エコポイントのZenは地域通貨として市が管理しているが、廃棄物部門での負担は一切ない。

【鳥居（武豊町）】

- ・ リユース品1キログラムあたり804円という経費は、60万円を回収量の746.2kgで除して計算
をしているが、746.2kgという数字はモデル期間の3か月間の数字であり、年間にすると計算上
では1キログラムあたり200円程度になる。
- ・ 人件費はリユースの受付専属業務としての契約を考えている。住民にリユースが定着し、持ち
込み方法等を啓発することによっていずれ受付業務を廃止する方向で検討しており、費用の削
減は期待できる。

(2) 市町村における使用済製品リユースモデル事業のとりまとめ（案）

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 小川）】

（資料3及び資料3-別紙に基づき、説明が行われた。）

【佐々木五委員】

- ・ コストに関して、P.53以降に記載してあるが、モデル事業の実績であることを各項目に書き込
んだほうがよい。他にも、手引きに記載されている会場のスペースや人員等についても、あく
までモデル事業の実績であることを記載したほうがよい。
- ・ 人件費をどう評価するかという問題はあるが、市町村の担当者はどのくらいの手間がかかるの
かというところが一番知りたいのではないか。例えば、事務量の目安を人工等で表せるとよい。
- ・ 事例として掲載されている市については、人口規模等の基礎情報だけでもどこかに整理したほ
うがよい。

【三橋座長】

- ・ 経費や人員等のデータはモデル事業を行った自治体名を、事例紹介されている自治体は人口等
の情報をぜひ入れていただきたい。

【杉委員】

- ・ 製品ごとの関連法令は載せないとのことだが、武豊町のモデル事業でDVDのコピー品の持ち込
みがあり、対応が必要であったことを踏まえると、法令違反になりかねない場合もあるので、
コピー品に関する法令の記述や、消費者の安全を守るため、製品の安全性に関する法令は記載
したほうが良い。

【田崎委員】

- ・ 資料3のP.53について、「リユースの可否に関する確認の有無にかかわらず」という記載は削除したほうがよい。リユースすることに対して同意がある場合には、窃盗行為にあたるかは微妙であるし、誤解を生じる恐れがある。
- ・ 資料3のP.6のリユースの多面的な効果に関して、リユース事業はこれまでの3Rに関する広報や啓発と違って、市民に直接メリットがある、喜んでもらえる広報・啓発事業であるという特徴があり、さらにNPO等との連携が期待できるようにもなる。市町村の今後の選択肢として、従来の3Rの広報や啓発方法を継続するのか、プラスの効果を得られるリユース事業を実施していくのかを比較できる書き方にしてほしい。またモデル事業を行った3地域についても、多面的効果に関する意見を報告書に記載していただきたい。

【加藤委員】

- ・ リユース事業は、継続、拡大が重要であるが、行政が絡むとコストが高くなるので、将来的には地域住民やNPO等を事業主体に移していくという方向にしたほうが発展していくのではないかと。

【波多部委員】

- ・ 参考情報として製品安全に関するURLが含まれていない。経済産業省のホームページにリコール品等の製品安全に関する情報が載っているので、URLを記載して、二次使用者に事故が起こらないようにしていただきたい。
- ・ 資料3別紙のB市の意見で、事業者との連携はハードルを感じるとあるが、モデル事業の費用が国から出されない場合においては、リユース事業者やNPO団体が連携相手として有望であり、事業者の選定方法・連携方法を今後考えていく必要がある。

【手塚委員】

- ・ リユース促進の多面的な効果に関して、資料2-3の武豊町の報告書P.7に記載されているアンケートで、リユースの認知度が高いという結果は、モデル事業を実施した武豊町特有のものであり、認知度が高まったということもリユース促進の多面的効果の表れであると考えられる。
- ・ まずはリユースという言葉の認知度を上げることが重要である。

【長沢委員】

- ・ この手引きは良いことばかりが書いてあり、課題が書かれていない。経費の計算方法に課題があるとは書いてあるが、経費に問題があるとは書いていない。手引きを見た自治体がいざリユース事業を行ってみると、赤字になり苦情が寄せられることにもなりかねない。「経費面での採算は合わないが、環境教育の一環として実施する」等の費用対効果を踏まえた事業の位置づけを書いたほうがよい。
- ・ 同様に、P.5の市町村の費用削減効果の項目に、処理費用削減効果はあるが事業全体では赤字になるという内容を含めていただきたい。

【服部委員】

イベント等で回収された全てのものがリユースされるわけではなく、武豊町のように半分以上が廃棄物にまわってしまうという現状があり、リユースすることで収益があると同時に、廃棄物の処理費用が発生してしまうということも、経費に関する記載として加えるべきではないか。

(3) 平成 26 年度のリユース実態調査の報告

【事務局（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 松岡）】

【事務局（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 加山）】

（資料 4、参考資料 2 に基づき、説明が行われた。）

(4) 意見交換会・分科会での検討結果の報告

【事務局（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 加山）】

（資料 5、6 に基づき、説明が行われた。）

3 . 閉会

【事務局（環境省 庄子室長）】

（閉会の挨拶を行った。）

（以上）